

## きれいな小鳥

1 夏の夜に騎士が

草原で馬に乗っていました デイドル

きれいな小鳥が

木にとまってさえずりました デイドル

朝日よ昇れ デイドル

いつときも早く朝日よ昇れ デイドル

朝日が昇れば おいとまできる

ぐずぐずしてはおれない身 デイドル

2 「早く 早く 高貴な騎士よ

何をのんびりしているの

城で何が起っているのか知ったなら

きつと青くなるでしょう」

3 「何をあわてて

昼夜をおかず 駆け戻らねばならぬのか

城には 忠義を尽くす騎士たちと

従順な妻が いるというのに」

4 「嘘です 嘘です 高貴なお方

それはとんだ的外れ

奥方様は騎士を抱いておいでです

あなたよりもいたくお気に入り」

5 「嘘だ 嘘だ きれいな小鳥

いとしい妻をよくも悪くいつてくれたな

自慢の弓を取り出して

一発お見舞いしてやろう」

6 「弓を私に向ける前に

すばやい矢が飛ぶ前に

居心地のいい

別の木に飛んでいきますよ」

7 「いったいおまえは どこで生まれた

きれいな小鳥 教えておくれ」

「緑の森の

ヒイラギの木で かえりました

お偉い方が巣を盗み

奥方様に渡しました

8 「やわらかな白パンと 牛のミルクで

世話をするように 奥方様にいいました  
時にはいたずらがすぎるかと  
細くやわらかな夏モミの若枝を渡しました

9 「やわらかな白パンと 牛のミルクなど  
くれたためしはありません  
細くやわらかな夏モミの若枝で  
たびたびひどく打たれました  
いわれたとおりに 大切にされていたならば  
奥方様の秘密を もらそうなんて思わない」

10 騎士は馬で 小鳥は飛んで  
夏の長い夜を 戻ってゆきました  
奥方様の部屋まで来ると  
馬からひらりと下りました  
小鳥は高い木に止まり  
楽しそうにさえずりました

11 「朝日よ昇れ デイドル  
いつときも早く朝日よ昇れ デイドル  
朝日が昇れば おいとまできる  
ぐずぐずしてはおれない身」 デイドル

12 「どうして朝日よ昇れと願うのですか デイドル  
おいとましたいと願うのですか デイドル  
あなたの犬は地下室で  
餌を食べているというのに」 デイドル  
朝日よ昇れ デイドル  
いつときも早く朝日よ昇れ デイドル  
朝日が昇れば おいとまできる  
ぐずぐずしてはおれない身 デイドル

13 「あなたの馬は馬小屋で  
飼い葉を食べているというのに  
あなたの鷹はとまり木で  
獲物を狙っているというのに  
あなたは私に抱かれていますというのに  
どうして朝日よ昇れと願うのですか」

14 「朝日よ昇れ デイドル  
いつときも早く朝日よ昇れ デイドル  
他人の妻を寝取った男が  
ぐずぐずできるはずがない」 デイドル

騎士は剣を抜きました

わらで刃を研ぎ

何度も何度も 不実の騎士を刺しました

冷たい切っ先で 騎士の腰を刺しました

誠実な人を裏切るものには

重い罰がくだりますように

(鎌田明子訳)